

東京研修で学んだこと

①まず、1日目のディレクトフォースでは、社会人としての考えや国際関係に携わることについての考えを様々な立場から聞くことができました。

一人目の吉田文一さんは、世界の主要銀行に勤めたり、海外で石油ビジネスに携わってくことで、世界の経済を見てきた、とおっしゃっていました。吉田さんは、複眼の思考を持つことが大切だ、ということ強くのべられていました。日本については2000年のスパンで考えること、世界をみること。また、戦争やテロ、移民や難民、環境についての3つの大きな問題は日本人こそ対処できるとおっしゃっていました。日本人には互いを認め会えたり、寛容さがあるからだそうで、根拠のあることには自信をもってほしいそうです。これから、私はたくさんの面から物事を考えられるようにしていきたいです。

二人目の信氏建人さんは社会人一年目で学生時代に災害支援ボランティアをおこなったことがきっかけとなり、非営利組織の日本財団に就職することで、社会貢献ができるとかंगाえたそうです。信氏さんは、広い選択肢をもってほしいとおっしゃっていました。

三人目の金子さんはコンビニエンスの役員や日本郵政の民営化の手伝いを行ったそうです。国際関係の仕事にたずさわろうとおもったのは、日本の良い技術や製品をもっともっと世界に発信したいと考えたからだそうです。日本で当たり前のことでも海外では当たり前でないことはたくさんあります。日本人の、使う人の身になってモノを作るという精神がこれからはたいせつで、地方それぞれが自慢できるものを作ることが必要だそうです。また、グローバルのために、日本の良いところを学んでほしいとおっしゃっていました。私は、自分から積極的に日本の良いところを探していきたいとおもいます。

四人目の小林義之さんは社会科学部で中国の外交などの歴史を学んだり、中国語を学んだり、中国に一年間留学していたことから、バイト先にそのまま就職して、日中間の歴史認識の違いを減らすために働きかけているそうです。国際関係の仕事をしたとおもったのは、日中間の誤解をなくしたいからだそうです。一番強くおっしゃっていたのは、前提認識ではなく、想像力を働かせてほしいということでした。

社会人としての先輩からたくさんお話をきけて、とてもためになりました。どの方も自分の強い考えがあり、様々な考え方があることを実感しました。わたしも、自分の考えをもてるようにしていきたいと思います。

②企業大学訪問では、東京医科歯科大学の森尾教授にお話を聞くことができました。

○森尾教授の研究について

・優良な微生物検出系キットを開発しているが、工学系の知識も必要なのか、また、他者に任せているのならば協力をどうやって得ているのか。

生物と化学の有機範囲の知識が必要。工学系の知識については、ソニーや島津製作所に協力してもらっている。これからは、医学でも数学力が必要。

・森尾教授が開発されている遺伝的安全性検証系は、遺伝子に傷がつき、腫瘍になりそうな細胞を早めに見つけるためのものだとあったが、細胞が腫瘍細胞になる過程を調べることによって、

よりよいガンへの治療方法が見つかる可能性はあるのか。

現在、傷がついてる遺伝子を見つける技術を開発中。ただし、いくつかの変異が段々積み重なってガンマになる。また、遺伝子は一万個に一つくらい読み間違ってしまう。(数理的に解析)人為的なエラーか普通のエラーか分かりにくい。

・遺伝的安全性検証系を将来国民に使い、より正確に細かく細胞の異常を見つけ、ガンへの早期治療は可能になるのか。

遺伝子異常=ガンではない。また、ガンにも色々な種類があり、ガンも日々進化している。そのためら全てのガンとはいかないが、早期発見につながる。ガンの原因となるミキ細胞は少なくしておとなしいため、やっつけにくい。皆ミキ細胞の特徴を探している。

・品質評価技術の開発において、難しい点はどのようなことか。

微生物の種類がたくさんあるため、時間がかかること。地道な努力や、論文を見に行ったりすることで新しい発見をすることが必要。論文を読むためには英語が大切。常に新しい情報を集めていなければならない。また、いつでも様々な分野の研究所と話せるようなコミュニティを作ることがとても重要。そのため、自己発信、会いに行くこと、コミュニケーション能力が大切。

・森尾教授の研究の原動力は何か。

病気をなおすため。病気の原因を研究するため。子供のため。オマケとして、生命の神秘を見れる。目の前に患者がいるため、モチベーションは高いままになる。

・ハーバード医科大学に留学した際に、一番大きく学べたことは何か。

物怖じしなくなる。世界が見える。ものさしが変わる。

・海外での研究において一番記憶に残っているものは何か。

優秀な人が多いこと。なんでもできる。何か技を持っている。うえにはうえがいる。違う立ち位置になった。

○医師という仕事において

・医師を目指した理由は何か。

倫理で生老病死について習って、医療と、向き合ったことがきっかけ。

・私たちを含め医師を目指している人に望むこととは何か。

色々なことに挑戦すること。続ける力をみにつけること。

・医師になる上で必要とされる心構え、力とは何か。

・今の医療に対する不安、不満は何か。

女性医師が増加しているが子育てしながら働く環境が整ってない。外科離れ。産婦人科離れ。医療費、特に、特効薬が高い。

・今後の医療に期待することは何か。

難病の原因、治療法を突き止める。安く、副作用なしで治療できるようにしたい。

・小児期の疾患を早期発見するために大切なことは何か。

遺伝子検査。ただし、確率だけの病気がみつかり、ただ不安だけで終わってしまう。

・何のために医師は存在すると思うか

生きている時間をより良く生きたい、という思いに寄り添うため。利他的。

以上のようなたくさんのお聞きすることができました。医師でも生物の知識だけではなく、様々なことが必要だとわかりました。特に、勉強だけでない、コミュニケーション能力や自己発信することなどは、普通に生活をするなかで、少し意識するだけでもちがうのではないかとおも

いました。

③ 1日目の夕飯の後、二校のOG、OBの先輩方からお話をききました。

- ・もっと、ずる賢く=問題集とかで始めから解くのではなく、苦手なところから解いていく。
- ・好きなことを突き詰めてほしい。
- ・自分の世界を広げてほしい。
- ・本をたくさん読んでほしい。
- ・今の決定を緩く考えてほしい。
- ・目先のテストを取り敢えず頑張る。
- ・具体的なイメージを持ってほしい。
- ・最後に決めるのは自分。
- ・自分を貫いて！
- ・学問など、何かしらに興味をもってほしい。
- ・自分から主体的に勉強する。
- ・英語を頑張る。
- ・自分で予習を進める。
- ・毎日コツコツ。
- ・スマートフォンを使ってしまうときは、自分から隔離する。学校のロッカーに置いている人もいた。

- ・与えられたもの+ α やる。
- ・やる気が出ないときは、スパッと諦めたり、少し散歩したりする。
- ・高校一年生のうちに勉強スタイルを確立する。自分に合うスタイルを見つける。

先輩方からお聞きしたことは考えてみればそうだな、と思うことから、自分では考えたことのないことまで多岐にわたり、とても参考になりました。二校へ入学した当初、先生方から言われていた覚えのあることばもありました。でも、忙しい生活のなかで忘れてしまっていたことがたくさんありました。少し時間に余裕がある今、生活習慣から見直したいとおもいます。また、最近毎日コツコツがあまりできていないように感じていました。まずは、そこから、やっぴいこう、とおもいます。